

エコパルなごや

春号
Vol.110

かんきょうをたのしく学ぶ

とくしゅう
特集

なごやのごみについて学んでみよう！

わたしたちの身のまわりにあるものは、いずれ使えなくなったり、使わなくなったり、いらなくなったりして「ごみ」に変わります。名古屋市ではおよそ230万人の人が生活しており、毎日のくらしの中でたくさんのごみを出しています。捨てられたごみは、たくさんの手間と時間とエネルギーを使って処理されています。

1990年代、なごやのごみ処理量は右肩上がりが増えており、名古屋市では新たな最終処分場を作ることが緊急の課題となっていました。候補地として名前があがっていた藤前干潟は、渡り鳥の飛来地であったため、市民から保全を求める声が高まりました。この問題がきっかけとなり、名古屋市は1999年2月に「ごみ非常事態」を宣言し、処分場を作るために干潟をうめ立てるのではなく、ごみを減らす努力をするという方向に転換したのです。

この非常事態宣言から25年が経過し、なごやのごみはどのような状況にあるのでしょうか。今回は、どうして今、ごみを減らす必要があるのかを考えながら、わたしたちができることを探してみましよう。



- 12 つくる責任
つかう責任
- 13 気候変動に
具体的な対策を
- 14 海の豊かさを
守ろう
- 15 陸の豊かさも
守ろう

いろいろな話題をお届けします。

とくしゅう
特集

なごやのごみについて学んでみよう！

エコパル
NEWS

特別ワークショップ、マンスリー企画展示
なごや環境大学、藤前干潟ふれあい事業のご案内

1. なごやのごみ減量に向けた取り組み

平成10（1998）年度、ごみや資源がしっかり分別されていなかった名古屋市のごみ処理量は100万トンにせまり、ごみのうめ立て処分場（愛岐処分場）が限界をむかえようとしていました。名古屋市は新しい処分場を藤前干潟に建設しようとしていましたが、藤前干潟はカニやカイ、ゴカイなどの生きものすみかであり、これらの生きものをえさとする渡り鳥の重要な飛来地となっていたため、うめ立て計画の中止を求める声が高まりました。その結果、最終的に計画は中止され、干潟を守っていくことが決められたのです。

しかし、ごみがなくなるわけではありません。名古屋市は平成11（1999）年2月に2年間で20万トンのごみを減らすため、市民や事業者のみなさんにごみ減量の協力を呼びかける「ごみ非常事態宣言」を発表しました。宣言後、袋の中がすけて見える「指定袋の導入」や「プラスチック製容器包装」、「紙製容器包装」などの資源収集といった分別・リサイクルの取り組みを徹底した結果、平成12（2000）年度のごみ処理量は76.5万トンとなり、目標だった20万トンのごみ減量を達成することができたのです。

市民が声を上げたことにより守られた藤前干潟は、平成14（2002）年に世界的に重要な湿地を守ることを目的としたラムサール条約（※）に登録され、現在も干潟を守る活動が行われています。

（※）ラムサール条約：ラムサール条約は1971年にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された、湿地に関する条約です。正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といいます。



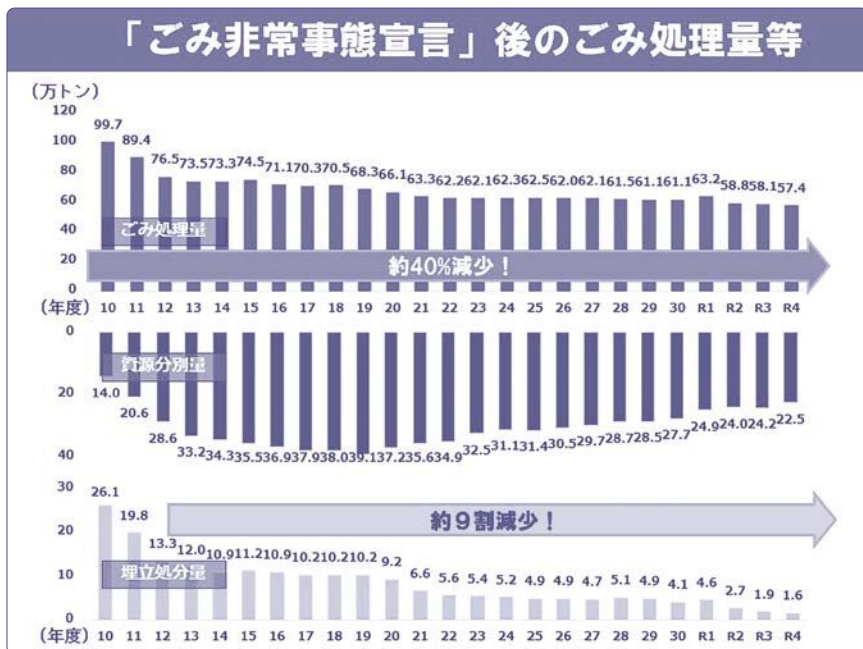
藤前干潟の全景



ハマシギ

写真提供：名古屋市野鳥観察館

2. 名古屋市のごみと資源の処理量のうつつりかわり



出典：名古屋市環境局「名古屋ごみレポート'22版」、
「名古屋第6次一般廃棄物処理基本計画」より作成

「ごみ非常事態宣言」以降のごみ処理量等の推移は、ごみ処理量については、しばらく横ばいが続いていましたが、令和2（2020）年度以降は減少しています。一方、資源分別量は、当時の約2倍に増加したものの、近年は減少傾向が続いています。うめ立て量についても、令和2（2020）年度に灰をすべて資源化する北名古屋工場が稼働したことなどにより減少しています。

しかし、ごみ非常事態宣言からごみ処理量などは大きく減少したものの、ごみをうめ立てる最終処分場にも限界があること、ごみを処分する際に出る二酸化炭素が地球温暖化の原因となることなど、大きな問題がなくなっただけではありません。「ごみを減らし、資源を活かす」取り組みを続け、かけがえのない地球環境を守りましょう。

3. ごみが減らないとどうなるの？

日々の暮らしの中で、わたしたちがごみを出さずに生活することは大変むずかしいことです。しかし、生活の中でごみを減らすことはできます。もし、わたしたちがごみ減量に取り組みず、ごみを出し続けるとどのような問題があるのでしょうか。

ごみの困った問題

たくさんのお金が必要になります



ごみを処理するためには、施設を作ったり、運営したりするためのお金が必要になります。処理するごみが多いとそれだけたくさんのお金が必要です。

天然資源がなくなります



ものを作るための原料や燃料となる天然資源には限りがあります。このままどんどん使っていけば、いつかなくなってしまう。

うめ立てる場所がなくなります



名古屋市内で出たごみを燃やした後の灰などをうめ立てる処分場は、すでに9割がうめ立てられています。新しい処分場を探し、つくるまでには長い年月がかかります。

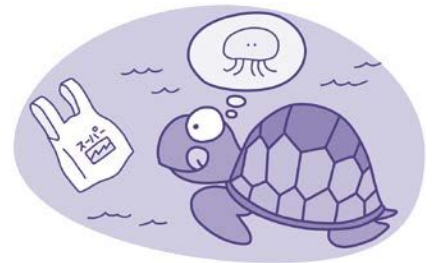
地球温暖化が進みます



ごみを燃やした時に、地球温暖化の原因となる二酸化炭素が発生します。また、ごみ収集車やごみ処理工場の施設を動かすことでも、二酸化炭素が発生しています。

そのほかに、今注目を集めているのが、海へ流出したプラスチックごみによる海洋汚染の問題です。プラスチックは自然界でなかなか分解されないため、長期間にわたって海をただよび、生きものに絡まったり、刺さったりするほか、生きものが誤って食べてしまうなどの被害につながっています。

また、海をただよううちに、細かくくだけた5ミリ以下のプラスチックは「マイクロプラスチック」と呼ばれ、世界中の海で確認されています。マイクロプラスチックの表面に有害物質が付着し、それが食物連鎖によって、人間を含む多くの生きものに悪い影響を及ぼすおそれがあります。



ゴミを減らせば…

お金や天然資源の節約にもなる。うめ立て処分場を長く使うことができるし、地球温暖化の防止にもつながるんだ。「資源をむだにしない」ということに目をむけて、まずはごみを出さないようにしましょうね！

出典：名古屋市環境局「令和5年度版 ごみと資源とわたしたち」

4. 家庭から出るごみには“もったいない”がいっぱい

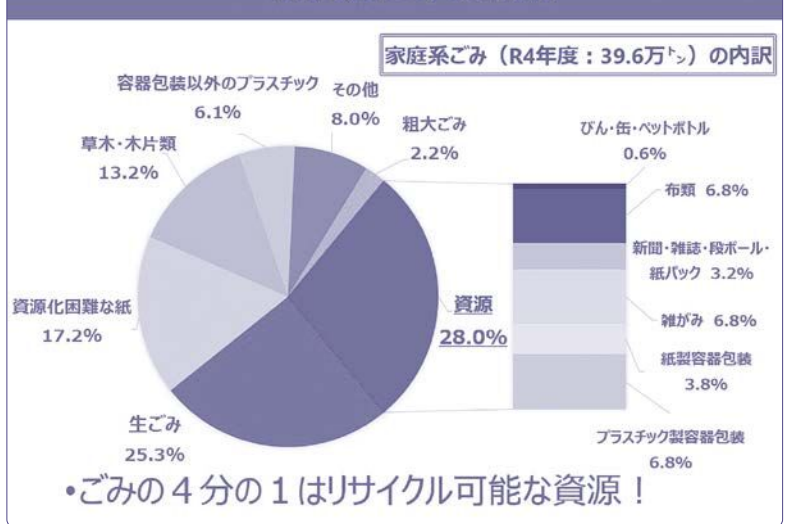
家庭から出るごみは、「可燃ごみ」「不燃ごみ」「粗大ごみ」のほか、プラスチック資源や紙製容器包装・雑がみ、



ペットボトルなどの「資源」に分かれます。

右のグラフは、令和4（2022）年度の名古屋市内の家庭から出たごみの内訳を示したものです。家庭から出る生ごみには、調理の残りくずのほか、賞味期限が切れた食品など、ほとんど手をつけていない食品も含まれています。さらに、家庭系ごみとして出されたごみには、本来リサイクルが可能な「資源」として分別すべきものが28%混ざっていました。リサイクルできるものが捨てられているなんて、“もったいない”ですね。

家庭系ごみの内訳



出典：名古屋市環境局「名古屋市第6次一般廃棄物処理基本計画」より作成
ごみの内訳は「家庭系ごみ細組成調査」により推計

5. さらなるごみ減量に向けて（ごみを減らす工夫）

お菓子の包装紙、スーパーのレジ袋などは、使い終わると不要になり、すぐにごみとなってしまいます。そのほかにも、ペットボトル、牛乳パック、食品トレイなど・・・そのまま捨てるだけでは、行き場をなくしたごみが街にあふれてしまいます。アルミ缶やペットボトル、新聞・雑誌などは、ポークサイトや石油、木材など、自然の中の限りある資源からできています。いつまでもあるわけではない資源だからこそ、大切に使い続けたいですね。

ところで、みなさんは“3つのR”を知っていますか。ごみそのものを減らす「Reduce（リデュース）」、ごみとして捨てずに何回もくり返し使う「Reuse（リユース）」、ごみをもう一度資源として再利用する「Recycle（リサイクル）」という3つの行動です。それぞれの英語の頭文字から、「3R」とよばれています。

リデュース: Reduce

ごみの発生を減らす



シャンプーや洗剤などを買うときに、詰め替え用のパックを買って中身を補充しましょう！

リユース: Reuse

ものを繰り返し使う



着なくなった服や使わなくなったものは、フリーマーケットに出したり、ほしい人にゆずったりしましょう！

リサイクル: Recycle

ものを資源として再利用



新聞や段ボールなどの古紙は、集団資源回収などに出してリサイクルしましょう！

3Rの取り組みでは、ごみの発生そのものを減らし、資源やエネルギーを節約する「リデュース」が一番大切です。まずは、リデュースをこころがけ、ごみとなるものを最初から買ったりもらったりしないように努めましょう。

ただ、日々の生活で、ごみを完全になくすことは現実的ではありません。そこで、まだ使えるものは自分でくりかえし使用したり、ほしい人にゆずったりするなどの「リユース」を実践しましょう。また、「リサイクル」にまわすものが増えれば、うめ立てるごみは少なくなるので、ごみとして捨てる前に「リサイクル」できないか考えてみましょう。

わたしたち一人ひとりがものを大切に、限りある資源をくりかえし使って、むだにしない社会を「循環型社会」といいます。3つのRは、この循環型社会をつくるためにわたしたちにできる大切な活動です。必要以上の資源を使わずにすむため、地球の環境を守ることもつながっていきます。

コラム

世界中で増えているプラスチックごみ

2022年OECD（経済協力開発機構）は、2019年の世界のプラスチック廃棄物は、20年前のおよそ2倍にあたる約3億5千4百万トンだったと発表しました。そのうち、リサイクルされているのはわずか9%です。

とくに新型コロナウイルスの感染拡大は、世界各地でプラスチックごみの急激な増加をもたらしました。使い捨てマスクやビニール手袋、消毒液などのプラスチックケースといった感染予防のためのごみが増えただけでなく、外出自粛による飲食店からの持ち帰りや配達が増えて、家庭から出るプラスチックごみが大幅に増えたのも大きな原因です。

2016年に開催された世界経済フォーラムの報告書によると、世界の海にたどり着くプラスチックの量は、2050年までに魚の量を上回るという予測も発表されています。ポイ捨てしないことはもちろんのこと、プラスチックを必要以上に使わないよう心がけ、プラスチックごみを出さないようにしましょう。



4月から「プラスチック資源」の一括収集が始まっているよ。これまで可燃ごみだったプラスチック製品を、これからは資源として収集するんだ。みんな新しい分別にも協力してね！



★エコパルNEWS★

特別ワークショップ

「せん定枝を使ったぶたカエルづくり」

- 日時** 5月26日(日) 10:30~11:10、13:00~13:40
対象 3歳~12歳 親子参加OK (小学3年生以下は保護者同伴)
定員 各30名(要申込・先着順) ※5月10日(金)9:30受付開始
費用 一作品500円
内容 なごやの公園や街路樹などのせん定した枝を使った工作教室。手のひらサイズのかわいい「ぶたカエル」を作ります。
講師 もくもく楽舎 たけちゃん工房

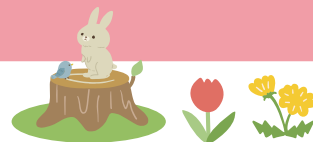
木の枝が…

変身!!

※三輪車は別作品です。



マンスリー企画展示



4月
テーマ

見て触れて学べる
リサイクル!工場の隣で
育てているみつばち!?

出展者

加山興業株式会社

内容

リサイクルの設備や素材について、見て、触れて、学べます!クイズを交えた楽しい展示で、日常生活ではあまり見かけないようなものにも触れることができるかも!?また、工場の隣で行っている養蜂についてもご紹介!「なぜリサイクルの会社が養蜂をしているのか」ぜひその答えを確かめに来てください!

5月
テーマ

あなたと環境を考える
なごや環境大学!

出展者

「なごや環境大学」実行委員会事務局

内容

なごや環境大学の取組紹介パネルの展示やイベントチラシ、なごや環境大学前期(4月から9月開催分)ガイドブックを配架します。また、学生が携わっているプロジェクト「環境情報メディア部」のなごやの歴史や自然などの魅力的な環境を伝える活動成果をポスター・動画で紹介いたします。

6月
テーマ

知ってる?
MSC「海のエコラベル」

出展者

MSC(海洋管理協議会)ジャパン

内容

水産資源と環境に配慮した、持続可能な漁業で獲られた水産物だけに付けられるMSC「海のエコラベル」について学べる展示です。6月8日の「世界海洋デー」に関連して開催するキャンペーンについても紹介します。

エコパルなごやのメールマガジン「エコパル通信」のお知らせ

エコパルなごやのイベントや展示情報、なごや環境大学の講座情報など最新情報をタイムリーにお知らせします。エコパルなごやウェブサイトのトップページ「エコパル通信」の登録フォームにメールアドレスを入力すると登録できます。

エコパルなごやでフードドライブを実施しています!

家庭にある手つかずの食品をお持ちください。フードバンク活動団体「セカンドハーベスト名古屋」を通じて、食べ物を必要とする方に届けられます。

※受取ができる食品には条件があります。

詳しくはこちらから↓

日時 毎月8日~14日 9:30~17:00 (休館日を除く)



なごや環境大学



ガイドブック好評配布中！

環境問題は難しそうだという人も、環境について人と話したり情報発信をしていきたい人も、環境に関心のある全ての人々が楽しく学べる講座を紹介している「なごや環境大学ガイドブック」。たくさんの講座の中には参加してみたいくなる講座がきっとあるはず。興味のある方はぜひ手に取ってみてください。

ガイドブック配布場所

- ▶名古屋市内の各区役所・支所
- ▶図書館
- ▶生涯学習センター
- ▶スポーツセンター等



Webサイトはこちら

なごや環境大学ウェブサイト
<https://www.n-kd.jp>



愛岐の里山たいけん隊 ~春の里山にいこう!~

愛岐の里山は岐阜県多治見市にある愛岐処分場の中にあります。かつては荒れた山でしたが、地元の方々を中心として手入れをし、自然豊かな里山として管理されています。田植えやタケノコ掘り、シイタケの菌打ちなど春の里山ならではの体験と一緒に楽しみませんか。

名古屋市で集めたごみの最終処分場である愛岐処分場の見学もあり、ごみと生活の関わりや名古屋市のごみの問題について考えます。



タケノコ掘り



田植え体験

日時 2024年5月25日(土)

場所 名古屋市愛岐処分場(多治見市)
里山までは、エコパルからバスで行きます。

受講料 1,500円(バス代・保険料代・昼食代)

対象 小学4年生から中学2年生まで

定員 15名

申込み 4月26日(金)必着・抽選
※抽選結果はメールでお知らせします。

共催 名古屋市環境学習センター「エコパルなごや」

お申込・お問合せ先

- ①名前・フリガナ、②学校名、③学年、④性別、⑤住所、⑥電話番号、⑦FAX番号(ある方のみ)、⑧保護者のメールアドレス、⑨アレルギー・バス酔いの有無をご記入の上、メール、FAXで以下まで。

「なごや環境大学」実行委員会事務局(エコパルなごや内)
〒460-0008
名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階
TEL&FAX: 052-223-1223
E-mail: jimun@n-kd.jp
HP: <https://www.n-kd.jp>

こちらからも
申し込みできます▶



藤前干潟ふれあい事業のご案内



Instagramアカウント「fujimaehigata_fureai」を開設しました!

藤前干潟ふれあい事業のイベントや藤前干潟に関する情報をアップしていきます。
ぜひ、フォロー、いいね、シェアをしてください!



ゴールデンウィーク期間の開館日のお知らせ

〈開館日〉4月29日(月・祝)～5月6日(月・振休)

〈閉館日〉4月30日(火)・5月7日(火)

名古屋市環境学習センター エコパルなごや

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号
伏見ライフプラザ13階

地下鉄東山線・鶴舞線の伏見駅「5番出口」徒歩7分

■開館時間/午前9時30分～午後5時 ■入館料/無料

■休館日/毎週月曜日 祝日の場合はその翌平日
年末年始 12月29日～1月3日

申込・問合せ先

TEL: 052-223-1066 FAX: 052-223-4199

<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/ecopal/>

E-mail: a2231066@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp



(消防署があるビル13階)

